

# 未来



全労協・郵政産業労働者  
ユニオン長崎中郵支部  
機関紙・「みらい」  
NO. 4398  
23年11月14日(火)  
Tel・Fax 095-828-1953  
文責 支部書記長

# ヤマトとの協業 混乱なくスムーズスタート

おはようございます。

ヤマト協業の取組状況について10月25日、日本郵便(株)より郵政ユニオンに対して情報提供がありました。一部抜粋して報告します。

10月2日から16道県において「クロネコゆうパケット」の引受が開始され、全国の集配局における配達も始まっています。

(1) 業務運行の状況では10月2日から16道県で引き受けを開始したが、地域区分局での引き受け、分配及び集配局における配達について、作業に遅れはなく安定的に業務運行を確保。

(2) 引き受け物数の推移は、引受開始10月2日から10月18日までのクロネコゆうパケットの引き受け物数累計は7

76,000個(想定)の33,3%)。想定より引受物数が少なくなっている主な理由は、



① ヤマト社側のお客様の対応が間に合わず、一部引き続きネコポスとしてヤマト社に差し出されている。

② 当社とのサイズの測定の基準、考え方が異なることからサイズオーバーが見え、当社へ引き渡されない荷物が増加した。

(3) サイズオーバー、サイズ相違の状況に関してはヤマト社に対して是正を強く申し入れ、社内内で対応中。

(4) お客様対応、ヘルプデスクに関してはコールセンターやヘルプデスクの応答率は、基準値を上回って推移している。

ヤマトとの協業は、当初のスケジュールより4道県を除外し、移行割合を20%から12,7%

へと変更しました。スタートして一ヶ月半が過ぎ、現場では「クロネコゆうパケットの引受が少ない」と感じていましたが、

会社の情報提供によると、引受個数は想定のおよそ三分の一になっていて少ない理由がわかりました。

協業スタート時の混乱をさけるために会社は「スムーズスタート」に舵をきりましたが、

想定外の引受状況も重なり、安定的に業務運行確保はされている模様です。

只、最終的(2025年2月)にはネコポスは全てゆうパケットへ移行します。また、3万人の労働力を必要としたクロネコゆうメールも移行します。



増員に関しては今の段階では具体的に会社からの考えは示されていません。一気に業務量が倍増すれば誰でも悲鳴を上げますが、少しずつ業務量

を増やせば我慢できると会社は考えているようです。

今後、現場で働く我々が出来ることは業務量が増えた時に、サービス残業ではなく業務量に応じた要員配置を求めていることです。



## 職場の声

土曜日休配、送達日数の変更の影響で、月曜日が物増、水曜日と木曜日が比較的少ないという流れが定着してきました。

長中局ではこの物数が少ない水曜日を営業強化日として取り組んでいきます。取り組みの一つとしてセールスマイスター社員が中心となって午後から特約営業での事業所訪問を行っています。

しかし午後から「営業専担」とされる社員も当日は配達担当に指定されており、営業の為の増配はほとんどありません。いくら少なめと言っても午前中で配達が完了する

はずはなく、他の社員が未配となった郵便物などを超勤対応で配達しなければなりません。

郵便物やゆうパックなどの減少をカバーするのに特約営業は大事な働き手です。しかし現場に浸透していないため、「あいつが営業に行くから、俺たちが多く配達しなければならぬ」と不満が出ます。また突発欠勤のため欠区対応している時にも実施し、業務運行は二の次です。業務は班任せのため、マネジメント能力次第で更に不満も多く出ています。

このため、対象社員への不満・役職者への不満がつのり、班の雰囲気はどんどん悪くなっています。対象社員からも「心苦しい」「好きで行ってわけではない」との声も聞きます。

また超勤削減のために様々な締め付けを行っている中で、「水曜日営業」だけは別というのにも納得できません。

負担を伴う施策を行う時には、必要性を浸透させる十分な説明が先決だと思えます。

期間雇用パート労働者の皆さん! 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

郵政ユニオン長崎のホームページはこちら



仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員と希望者全員が正社員化を。

ゆびが、均等待遇を。

なごころ差別。

ユニオンは労基法裁判に勝利したぞ!